

2023 年 3 月期 上期決算説明会 質疑応答要旨
(2022 年 11 月 10 日開催)

オルガノ株式会社

本資料については、当社判断で簡潔にまとめたものとなりますこと、予めご了承下さい。

Q 電子産業分野で高水準の半導体投資が継続しているとの事だが、来年に向けて半導体工場の新設関連投資が減少する可能性をコメントする会社もある。半導体関連の見通しについてオルガノの見解を教えてほしい。

A 一部の汎用メモリ分野では投資の先送りや見合わせなど一時的に工場の新設投資が落ち込む可能性もあるとみているが、最先端の半導体分野では引き続き活発な投資が続くとみており、そこに向けた水処理設備の需要も国内外で伸長することを期待している。

Q 中国での半導体ビジネスに関しては米国政府の規制が強化されるなど不透明な状況が続いているが、オルガノにはどのような影響があると考えているか。

A 中国での当社顧客は米国政府の規制対象外となる顧客が中心であり、当面は大きな影響はないと考えるが、米中対立の状況によっては規制が拡大される可能性も考えられる。各国政府や市場の動向をよく注視する必要があると考えている。

Q 受注・売上・利益とも通期の見通しを上方修正されたが、修正された見通しに対する上振れ、下振れのリスク要因をどのように見ているか。

A 当社の海外事業は中国、台湾向けのウェイトが高く、米中・中台の地政学的リスクを懸念している。当社だけの取組みで対処しきれるレベルのリスクではないが、複数のシナリオをベースに事業への影響についてシミュレーションを進めていく。

また、原材料価格についても価格転嫁が順調に進んでいるものの、成約済みの案件について材料価格がさらに値上げされるケースもある。そうした場合には顧客と価格交渉を再度行うことになるが、転嫁しきれない場合にはコストアップの要因となり得る。加えて、大型案件が増える中で、現場工事を含めた業務の効率化も今後の需要を取りこぼさないためのポイントと考えている。

なお、為替変動については、中国人民元、台湾ドルなどの動向が影響するものの、基本的には各国とも売上・コストとも同じ通貨で発生する取引が中心であるため、大きなリスク要因とは考えていない。

Q 水処理エンジニアリング事業において、ソリューションビジネスの上期実績が期初の計画を下回った理由、また半導体メーカーの稼働調整が実際に起こった場合にはソリュ

ーションビジネスにどのような影響が起こり得るか。

- A ソリューションビジネスは上期で若干の計画未達が発生しているが、通期では期初計画並みの売上を想定している。材料や工事などの納期が長期化していることによって、売上が下期以降に期ズレとなったことや、新型コロナの影響によって現場への出向を控えざるを得なかったケースがあったことなどが、上期末達の要因と考えている。また、半導体メーカーの稼働が下がった場合にはメンテナンスや消耗品の交換需要が減少するためソリューションの売上にマイナスの影響となり得る。

- Q 水処理エンジニアリング事業は、受注時点で都度見積を行うため、原材料価格の上昇分を売価に織り込みやすいビジネスモデルと理解している。上期の営業利益が期初計画から大きく改善しているが、具体的に期初でどのようなリスクを見込み、それに対してどのような改善が進んだのか。

- A 足下ではプロジェクトの受注価格が決定した後にも、見積時に想定していた以上に材料価格が上がってしまうことが度々発生している。期初時点ではそうしたケースでの価格転嫁は難しいものとみていたが、実際は価格転嫁を受け入れて頂けるケースが想定よりも多かった。

- Q 受注高については、上期よりも下期の方が期初計画を上回る額が大きくなっており、電子産業分野などで下期の投資が上期以上に拡大する見通しであると理解している。これは、案件の規模や件数が拡大したものか、または確度の低かった案件が受注に結び付きそう、ということなのか。また市況の停滞といった報道もあるが、投資計画の延期や縮小といったケースはないか。

- A 下期の受注高については、受注時期が上期から下期に後ろ倒しとなった案件があったことに加え、複数の顧客で材料や工事の納期が長期化していることなどによって発注時期が前倒しされるプロジェクトがあることなどから、期初の想定と比較して大きく拡大する見通しである。全般的には好調な推移を見込んでいるが、顧客によっては投資計画の延期・縮小を検討しているケースもあるようだ。

- Q 世界的な異常気象で水不足のリスクが出てきているが、水処理機器メーカーにとってビジネスチャンスになるものか。

- A 実際に排水を回収して再利用するニーズが高まっており、当社としても大きなビジネスチャンスになるものと考えている。

- Q 当期の受注高が想定を上回ったことで、次期の売上高も右肩上がりでの拡大が期待できそうか。半導体関連の投資は市況の動向によって落ち込みの懸念もあるが、半導体以外の分野も含めて考えれば利益面でも成長が期待できるか。

- A 受注高は売上高の先行指標であり、当期の受注増は来期の売上増につながるものと想定

している。原材料価格の高騰などがリスク要因ではあるが、利益については売上の伸びに応じて伸長が期待できるとみている。

Q 電子産業分野の顧客について、半導体メーカーと半導体装置メーカーではどのような構成比率になるか。また中長期的な半導体市場の拡大を想定しているが、来年度についても市場の拡大を予想しているか。

A 半導体装置メーカー向けの売上もあるが、構成比率では半導体メーカー向けが圧倒的である。来年度の市場見通しについては、最先端分野での設備投資やそこで使われる超純水装置の需要は来年度も拡大すると予想している。

Q 微細化・積層化など半導体の高度化はオルガノにとっても有利に働くか。

A 極めて純度の高い超純水の供給技術とその水質を測定する極微量分析が当社の強みであり、微細化・積層化などさらに高純度の水が求められる半導体の高度化は当社にとって有利に働く。当社の開発センターではこうした次世代の超純水技術の実験を進める新棟の増設を行うなど開発の強化に取り組んでいる。

本資料における業績予想等の将来に関する記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

以 上